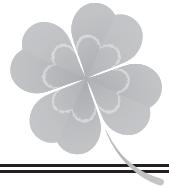


第Ⅰ章 家庭教育学級について

(Ⅰ) 家庭教育学級とは



家庭とは



愛情による絆で結ばれた場

常に子どもの心の拠り所となるもの

子どもが生きていくための基礎を培う場

家庭教育とは



すべての教育の出発点

子どもの健全な身体と人格の発達のために、親またはそれに準ずる大人が子どもに対して家庭で行う教育

家庭教育学級とは

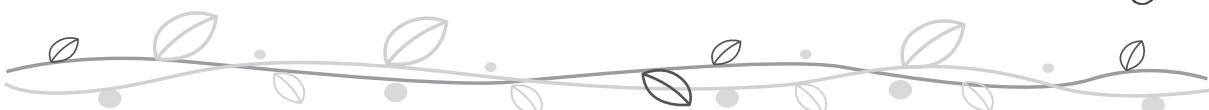
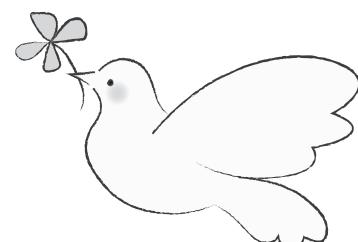


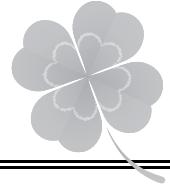
“子育て”や“しつけ”について学んだり悩みを話し合ったりする場

家庭教育のあり方を学び、自ら振り返る場

子どもの健全な身体と人格の発達を援助するのが、大人の役割です。発達の土台は感情の安定であり、土台がしっかりとすると、自主性や協調性、知恵・体力が育っていきます。そして、それぞれの育ちの段階には大人の働きかけが必要です。

家庭教育学級では、各段階で子どもにどのように働きかけるとよいのかなど家庭教育に関する情報を得たり、互いの悩みに寄り添いながら親としての成長を確かめたりすることができます。





(2) 家庭教育学級リーダーの役割

子育てや親育ちのための保護者の学びを主体的に企画・運営することが、
リーダーの役割です。

学校(園)や県・市町村の家庭教育担当者、他の保護者と協力し合って、
子どもの成長に望ましい取組を行っていきましょう。





(3) 家庭教育学級リーダーの心構え

ともに悩み、ともに考え、 親として成長する心を忘れないリーダー

家庭教育学級リーダーだからといって、子育てに関して完璧である必要はありません。多くの保護者は、実際の子育てにかかわりながら悩んだり考えたりして、徐々に親として成長していくものです。家庭教育学級リーダーの皆さんは、悩んだり考えたりしている保護者の一人として、家庭教育学級参加者と一緒にになって「親として成長していく」という願いをもって活動を企画・運営していきましょう。

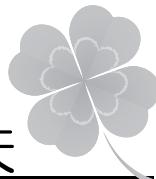
子育てに関する話題を敏感に取り入れ、 「学びのある」家庭教育学級運営を心がけるリーダー

保護者自身がよりよい家庭教育とはどうあるべきかを考え、悩みながらも成長していくことはとても重要なことです。しかし実際には、自分の子育ての問題点に気づかないまま子育てを行っている保護者も少なくありません。家庭教育学級リーダーは、子どもの姿や社会（地域）での子育てに関する話題に敏感になり、家庭教育学級の学習内容を考えてみましょう。

学習内容は、園・学校の先生（家庭教育学級担当者、教頭先生など）、市町村の家庭教育担当者と相談して決定していくのがよいでしょう。家庭教育学級リーダーが問題を一人で抱え込むことがないよう、関係者と相談しながら学級を運営していきましょう。

見通しをもち、 計画的に準備を進めるリーダー

家庭教育学級の開催には、計画からまとめまで、多くの手順があります。見通しをもち、ひとつひとつの手続きや準備を丁寧に進めましょう。



(4) 家庭教育学級の学習形態と工夫

家庭教育学級の学習形態は大きく5つの型に分類できます。それぞれの方法や特徴、メリット、取組のポイントを参考にして、学級開催の計画を立てましょう。また、一つの型にとどまらず、組み合わせることで学びがより深まります。

学校行事参加型

方法・特徴	メリット
就学時健診、授業参観、PTA活動など、学校（園）の行事がある機会をとらえて開催する。	・参加者が集まりやすいため、多くの保護者に学びの場を提供することができる。
【取組のポイント】	
・学校（園）行事をそのまま家庭教育学級とするのではなく、学校（園）行事に参加している保護者に対してさらに学びの場を提供するという考え方で開催する。 ・事前に打ち合わせをしておき、校（園）長、教頭、主幹教諭、養護教諭、栄養教諭などの講話には、テーマに沿った親としての学びにつながる内容を取り入れてもらう。 ・主体的に参加者が増えるよう、学びの内容も含めて積極的に広報する。	

体験活動参加型

方法・特徴	メリット
ヨガ、フラワーアレンジメント、料理、親子遊びなど、保護者自身のリフレッシュや家族のふれあいの場をつくる。	・カルチャースクール的な内容は参加者が集まりやすい。 ・家族のふれあいができる。
【取組のポイント】（年間を通してこの学習形態ばかりにならないようにする）	
・保護者のみの場合はカルチャースクール的な内容だけで終わらず、家庭教育に関する情報交流や講話を取り入れ学びにつなげる。（例：料理の後、食育に関する栄養士の講話） ・親子参加の場合は、意図して父親の参加を促すなど、家族でのふれあいが深まりその後の発展が期待されるような工夫をする。 ・活動の中に「よさ見つけ」を取り入れ、活動の終わりに互いのよさを交流する時間を位置づける。	

講演会型【参考：P.21】

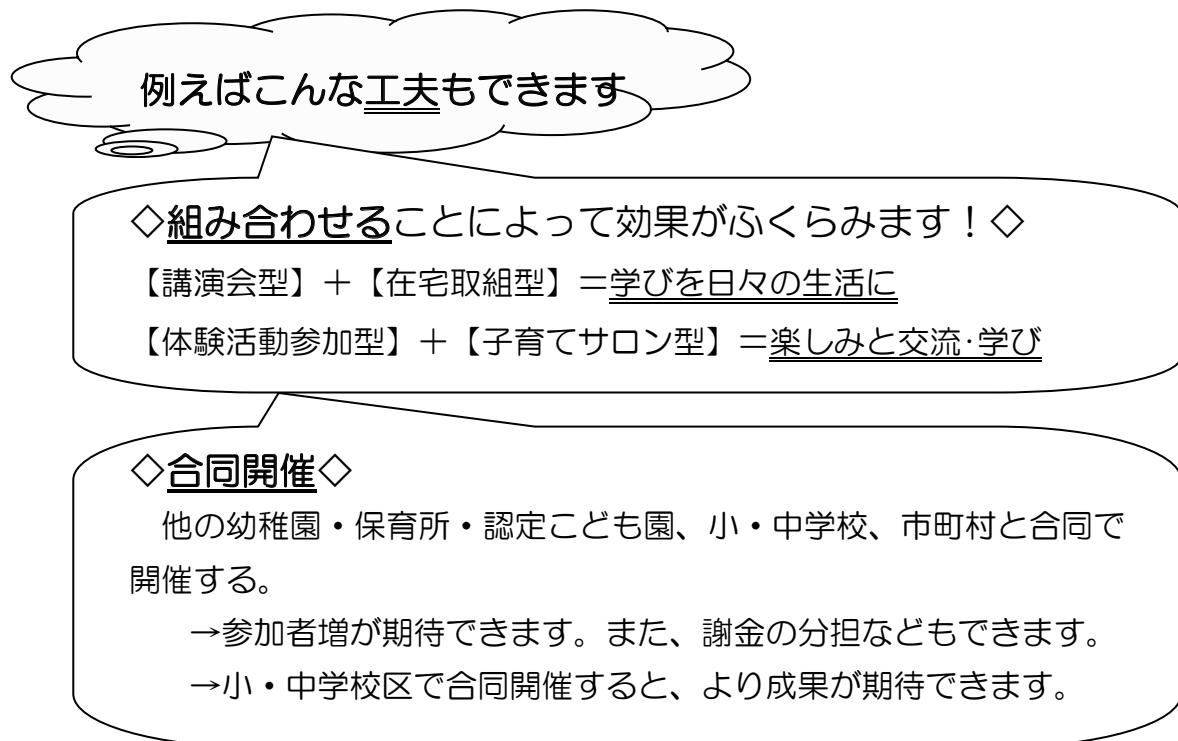
方法・特徴	メリット
テーマに適した講師を依頼し、専門的な話をしてもらうなど、課題に応じた学びの場をつくる。	・専門的な立場からの話を聞くことによって、より深く自分の思いや行動を振り返ることができる。
【取組のポイント】	
・学校（園）や教育委員会に相談して、テーマに適した講師を選定する。 ・講演会は堅苦しいというイメージが強く、参加者が少ない傾向があるので、興味を引く案内チラシを作成するなど、広報活動を工夫する。 ・保護者が参加しやすい開催時間や場所などを設定する。 ・事前に、保護者に学びたい内容や講座内容にあわせた子どもの状況などについてアンケート調査をすると、保護者のニーズをとらえたり、問題意識を喚起したりすると良い。 ・講演を聞いた感想を交流する子育てサロンを取り入れると、学びが深くなる。また、在宅取組を組み合わせると、学んだことを実践に生かすこともできる。	

子育てサロン型【参考：P.6、P.21】

方法・特徴	メリット
小グループの和気あいあいとした雰囲気の中で互いの経験や悩みなどを交流し、子育てのヒントをつかむ。	<ul style="list-style-type: none"> 話すことによって悩みや不安の軽減、または解消ができ、自分の子育てに安心感や自信をもつことができる。 保護者同士のつながりができやすい。
【取組のポイント】	
<ul style="list-style-type: none"> グループ人数は、誰もが話せるよう5～8人ぐらいとし、司会者（進行役）をおく。 司会者（進行役）は、話しやすい雰囲気づくりに心がける。 あらかじめテーマを設定してもよい。 お茶やお菓子があると和やかな雰囲気になり、ざっくばらんに話ができる。 体験活動参加型や講演会型と組み合わせると実践しやすい。 	

在宅取組型【参考：P.7】

方法・特徴	メリット
読み聞かせ、弁当の日、早寝早起き朝ごはん運動、「話そう！語ろう！わが家の約束」運動など、親子でできることを決め、各家庭で取り組む。	<ul style="list-style-type: none"> 全ての保護者に家庭教育の重要性について働きかけることができる。 家族のコミュニケーションを深めることができます。
【取組のポイント】	
<ul style="list-style-type: none"> 家庭で継続して取り組めるよう、子どもの年齢や発達に応じた課題を設定する。 朝ごはん、靴ぞろえ、手伝い、読書、挨拶など、活動しやすい例を示す。 各家庭で、取組の足跡を残せるよう、記録用紙を準備して配布する。 学校（園）や地域、行政に協力を依頼し、園・学校ぐるみの取組にしたり、小・中学校区全体で一斉に取り組む活動にしたりすると効果が高まる。 親子で話し合ったりふれあったりすることを大切にする。 	



【子育てサロン型運営のポイント】…

話しやすい雰囲気づくり

司会者（進行役）の心構えとポイント

子育てサロン型の家庭教育学級に参加する人は、いろいろな願いをもっています。

- ・悩み事を解決したい人
- ・話を聞いてもらい、すっきりしたい人
- ・みんなの話を聞いて、「自分だけじゃなかった」と安心したい人
- ・自分の経験を誰かに伝えたいたい人
- ・新しい仲間をつくりたい人

ひとつのテーマについて自由に話し、それぞれが自分の願いを叶えられるよう、話しやすい雰囲気をつくり出すのが司会者（進行役）の一番の役割です。

- ・参加者の不安を取り除くため、自らを語り、話しやすい雰囲気をつくる
- ・互いの経験からともに学ぶため、経験談を引き出す
- ・話が盛り上がっているときは、その場の雰囲気を見守る
- ・参加者同士で「3つの約束」を確認し、司会者がまず守るようにする

<3つの約束>

- 参加：参加者は全員平等ですから、全員が参加できるように心をくばります
- 尊重：お互いの意見や感じ方を尊重し、否定や押付けをせず、パスも認めます
- 守秘：信頼関係の上での交流ですから、個人情報に関わる内容は口外しません

子育てサロンに
教師が参加する
場合の心構え

- ・教師とともに学ぶという姿勢で参加する
- ・保護者の意見に注意深く耳を傾ける
- ・学校での子どものよさを伝える
- ・意見を求められたら、専門性を生かしてアドバイスをする

<事前に>

- ・グループ分けをしておきましょう。人数は1グループ5～8人程度がよいでしょう。多いと聞き取りにくかったり、意見を言うことができなかったりします。
- ・グループの座り位置を定めておきましょう。
- ・司会者を決めておきましょう。担当が行うこともいいですし、担当以外の方に事前に頼んでおくこともいいですね。
- ・話し合うテーマを考えましょう。
 - 子育てについて困っていることや悩んでいること
 - お小遣いの与え方
 - お手伝い
 - テレビ・スマホ・ゲームとのつきあい方
 - わが家の約束など

<工夫>

- ・講演型、体験活動参加型と組み合わせ、感想交流から始めることもできます。
例えば 「今日の親子体操で見つけた子どものよさをまず交流しましょう。」「子育てについての講話を聴きましたが、感想を交流しましょう。」
- ・子育てサロンの内容とつなげて、在宅取組型を組み合わせることもできます。
例えば 「褒めることやよさ見つけの大切さを交流したので、今日から一週間、よさ見つけに取り組んでみましょう。カードを準備しましたので、そのカードに記入し、提出してください。」

【在宅取組型運営のポイント】…

各家庭の状況に応じて

各家庭でできることに取り組む

- ・初めて取り組む場合や、各家庭の実態の差が著しい場合には特に有効
- ・子どもの発達段階を考慮し、具体的な例をいくつか紹介する
- ・何に取り組むかを家族で話し合うことにも意味があると伝える

<取組例>

テレビを消して食事・家族そろって「いただきます。」・日曜日は親子で玄関掃除 等

テーマを決めて一斉に取り組む

- ・子どもの問題点がはっきりしていたり、ある目的の一部として取り組んだりする場合に特に有効
- ・テーマを決めた理由を伝え、目的をはっきりさせる
- ・取組の成果を次につなげる

<取組例>

親子で歯磨きチェック・週に一度は親子読書・「おはよう」のキャッチボール 等

「話そう！語ろう！わが家の約束」運動

<目的>「わが家の約束」について取り組んだり話し合ったりすることを通して、家庭内のコミュニケーションを深め、子どもの健やかな成長を目指す。

<どのように取り組むの？>

- ① 家族で話し合って「わが家の約束」を決定する。
- ② 取組を実践カードに記録する。
- ③ 実践後、家族で互いの思いを伝え合う。
- ④ 次の約束(実践)を話し合う。

子どもだけではなく、家族一人一人の取組になるよう、工夫しよう！！

<取組カードの例>



期待できる家庭での学び

- ・家族のコミュニケーションが増え、家庭が明るくなる
- ・生活を見つめ直し、改善すべき点が見つかる
- ・責任をもってやりとげることの大切さが分かる
- ・わが子の理解が深まる
- ・子どもの社会性が育ち、適切な親離れが進む

それぞれの家庭の考え方・暮らし方は様々です。取組の目的を明らかにした上で、**各家庭の状況に応じた取り組み方や内容を選択できるように配慮しましょう。**

★在宅取組 3つマナー 「比べない」「探らない」「強制しない」

在宅取組を実施する際には作品や実践カードの扱いに気を付けましょう。カードの記載内容には家庭の様子が分かる個人情報が多く含まれます。みんなが気持ちよく学び合うために、上記のマナーを守りましょう。